

小樽市総合体育館については、耐震性能が旧基準のままであり、老朽化も顕著であることなどから、旧緑小学校跡地での建替えによる再整備を検討します。本計画は、多額の費用がかかる新総合体育館の整備について、規模・機能・事業費・スケジュールなどを取りまとめたものです。

新総合体育館の空間コンセプト

(1)多目的空間

(2)交流空間

(3)安心・安全空間

方針1 「適正配置・適正規模」

- 施設の状況や利用状況、類似施設の配置状況等を踏まえ、施設の継続や廃止を含めた適正配置に努めます。
- 地区大会・全道大会を開催できる規模を維持するとともに、大会運営が円滑にできるよう配慮しつつ、本市の将来人口推計や施設の利用状況・利便性・経済性などを踏まえ、総量の削減を基本とします。

方針2 「災害時の安全確保」

- 災害時の避難所となっていますが、耐震性能が低いことから、震災時に避難所を開設できないという現在の体育館から、利用者の安全確保を目的とし、災害備蓄庫や非常用電源、トイレ水の供給など防災機能を備えた施設とします。

方針3 「ユニバーサルデザインの推進」

- 本市においては高齢化率が4割を超えることから、「高齢者、障がい者の移動等の円滑化の推進に関する法律（バリアフリー法）」や「ユニバーサルデザイン2020行動計画」に基づき、全ての人にやさしいユニバーサル社会を構築するため、高齢者、障がい者だけでなく、だれもが利用しやすい公共施設のユニバーサルデザインを推進します。

方針4 「プール室の設置」

- 水泳や水中ウォーキングなどは、陸上の運動に比べると、浮力があるため身体への負担を減らすことができ、少子高齢化が進行している本市においては、スポーツ実施率向上及び健康寿命の延伸が期待できます。また、市内には学校プールのない小中学校があることから、水泳授業の場として活用するため、プール室を配置することとし、屋内で実施できるスポーツ機能を集約することで、市民の利便性の向上を図ります。

方針5 「省エネルギー化及び再生可能エネルギーの導入」

- 現在の総合体育館及び旧水泳プールは重油ボイラーを使用していますが、近年主流のガスボイラーと比較して燃焼効率が悪く、二酸化炭素の排出量が多いという問題点があります。新総合体育館を建設するにあたり、省エネルギー化（高効率機器の導入など）及び再生可能エネルギー（太陽光や地熱など）の導入を検討することで、光熱水費の削減を図るとともに環境に配慮した施設にします。

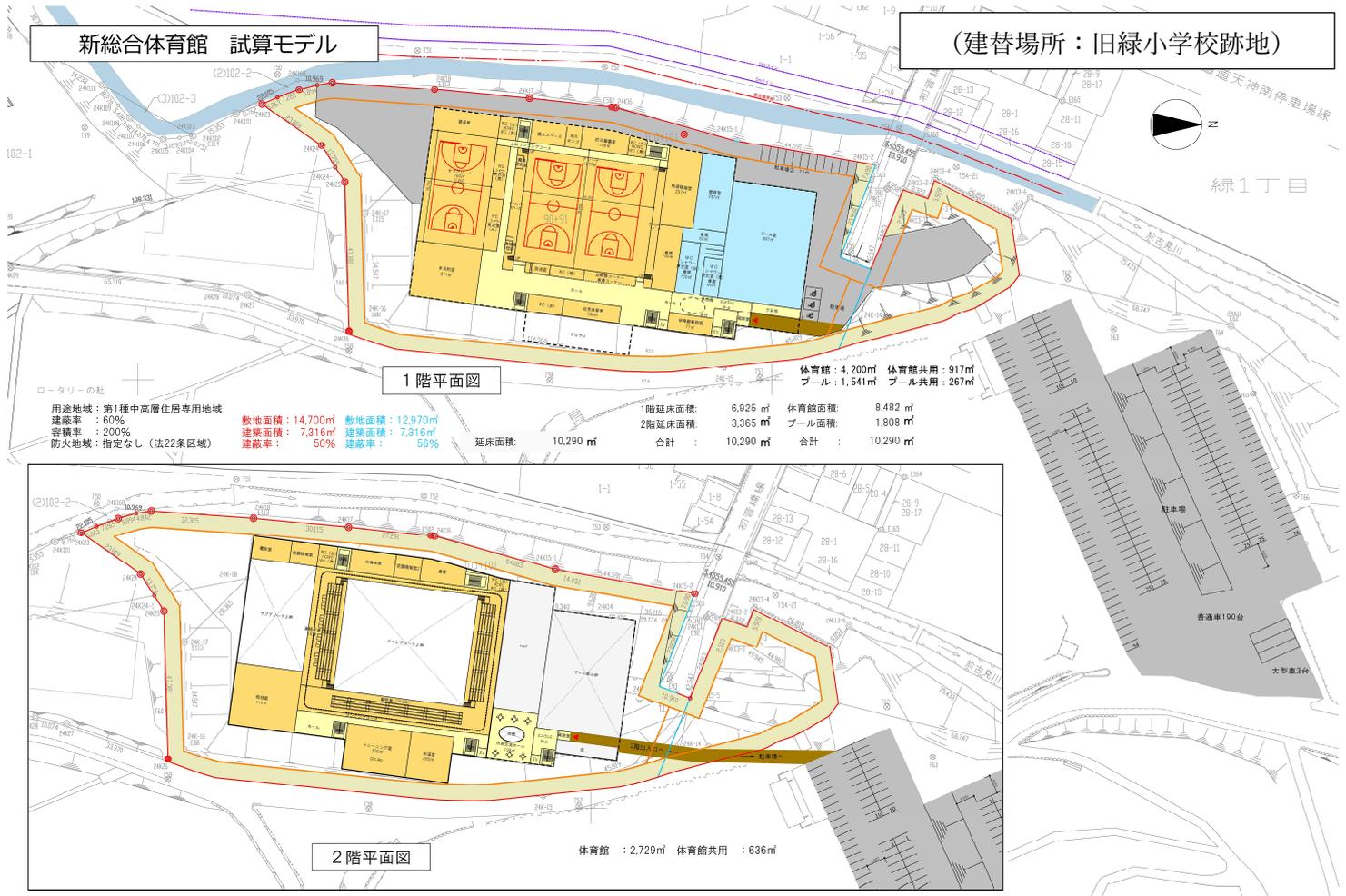
小樽市総合体育館長寿命化計画（令和4年2月発行）

■発行：小樽市教育委員会（担当：教育部生涯スポーツ課）

〒047-0034 小樽市緑3丁目4番1号 TEL 0134-32-4111 内線 7318

試算モデル

以下の内容は、小樽市総合体育館長寿化計画策定時に試算モデルとして記載したものであり、今後の検討内容に応じて、施設内容や配置、平面計画等は変更になる可能性があります。



| 建替えの試算モデル | |
|-----------|--------------------------------|
| 体育館 | メインアリーナ2面、サブアリーナ1面 |
| 延床面積 | 10,290㎡(体育館:8,482㎡、プール:1,808㎡) |
| 本体建設費 | (概算)約 58 億円 |

総合体育館の現状

総合体育館は、完成から45年が経過し、新耐震基準を満たしておらず、また、老朽化が著しい状況です。

(参考) 小樽市の将来人口

小樽市の人口は将来減少することが予想されており、新総合体育館の整備に当たっては、その建設費や維持費が、将来の小樽市にとって過度な負担とならないよう、十分に配慮する必要があります。

● 国立社会保障・人口問題研究所による小樽市の将来人口の推計

| 2025年 | 2030年 | 2035年 | 2040年 | 2045年 |
|----------|---------|---------|---------|---------|
| 100,236人 | 89,561人 | 79,253人 | 69,422人 | 60,424人 |